



ボラテック株式会社 代表取締役
中内晃次郎氏

で木くずを減らせる利点も持つプレカットは、あつという間に業界に浸透。最近では新築木造住宅の約95%にプレカット部材が利用されているという。と同時に、同事業を手がける「ボラテック」には、高品質で設計事務所機能を持つことなどが評価され、同業他社から注文が殺到し、全国の約15%のシェアを持つ国内最大手へと成長した。

そんな同社にとって次なる成長のステージが、九州だった。「九州は、新規住宅着工戸数で常に福岡と熊本が上位に入るほど、大きな市場。全国展開をめざす上でいつかは進出しなければならぬ」と思っていました。そこで当初は目標を2020年に据えていました。

その計画が早まったきっかけは、2016年4月の熊本地震。以前から耐震技術の研究を重ねていた同社にとって、ニュースで見える映像は他人事に思えなかつたと中内代表は明かす。「これは大変だ。新しい住宅が必要になるだろうし、私どもが持つ最新の耐震技術を提供することで、九州の皆さんの役に立てるのではないかと。そう考えて計画を前倒しする決断をしたのです。」

企業の立場で手厚い支援

そこからは速かった。すぐに情報を集め、6月には視察。7月には佐賀県唐津市への進出に向けて動き始めていたという。「まず、市場が大きい福岡と熊本の両方に近いロケーションとアクセスの良さが魅力でした」と中内代表。唐津市を通る西九州自動車道は、福岡市の都市高速、さらには九州自動車道ともつながっており、九州のどの県へもスムーズに移動できる。「福岡空港へも唐津から約1時間半。埼玉・羽田より近いかもしれないですね。」(中内代表)

もう一つの大きなポイントとは、トップセールスと迅速なサポート体制



佐賀県企業立地ガイドはHPからダウンロードできる



海を臨む場所にプレカット工場が建設される

だったという。「知事や市長が直々にこられたのには驚きました。地方に進出する場合は、地元の方と仲良くできるかが大事。佐賀県なら間違いないと思いました。あんなに厚いパンフレットも初めて見たし、手作り感のあるイメージパースも良かったね(笑)。」

「佐賀県企業立地ガイド」と題されたパンフレットには、災害の少なさや豊富な人材といった佐賀県

**日経産業新聞フォーラム
「佐賀県企業立地セミナー」**

新たなビジネス拠点として注目が集まる佐賀県。そのメリットや取り組みについて紹介します。

- 日時 2017年2月9日(木) 15:00~18:30
- 会場 品川プリンスホテル 東京都港区高輪4-10-30
- 定員 200名(事前申込・抽選)
- お申込 日本経済新聞社 クロスメディア営業局が運営する「日経アドネット」より <http://adnet.nikkei.co.jp/e/saga2017/>

の強みや、優遇制度、進出後のフォロー体制などが丁寧に紹介されている。また、手書き風のパースは、社内の進出後のイメージ共有に役に立ったという。

「職員の方も非常に熱心。どんな課題にもこちらの立場にたつてすばやく対応してくれました。私たちの想いに佐賀県や唐津市がスピーディに答えてくれたんです。」

海辺の新工場は、近くの名勝「虹の松原」にちなんで、「レインボーフィールド」と名付ける予定。月300棟の生産から始め、3年後を目途に工場を拡張し、2、3倍の生産量をめざしていくという。社員の採用も始まった。豊富な人材という佐賀県の強みを裏付けるように、11月の会社説明会には約百人が集まり、急きよ面接ブースを増設して対応。地元の期待と関心も大きい。

佐賀県から、新たな「地域密着」戦略が始まっている。

佐賀県産業労働部 企業立地課
☎ 0120-218-385
Mail: kigyouricchi@pref.saga.lg.jp

佐賀県首都圏事務所
TEL: 03-5212-9199

佐賀県企業立地ガイド
<http://saga.kigyouricchi.jp/>



プレカット最大手・ボラテック 九州初拠点は「佐賀県」

復興支援の志に行政トップが応える

埼玉県越谷市に本社を置く住宅事業の「ボラスグループ」。その中核をなすプレカット事業を手がけるボラテックが、九州進出を決断した。注目された新拠点は、佐賀県唐津市。わずか4カ月で佐賀県に決めた理由を、中内晃次郎代表取締役兼に聞いた。

「地域密着」で急成長

玄界灘に面した佐賀県唐津市。その中心部から約4キロ、海を臨む広大な用地で今、新工場の建設工事が急ピッチで進められている。「2017年5月の操業開始を目指しています。埼玉県には海がないものですから(笑)、海辺に工場を作ってみたかったんですよ」と語る「ボラテック」の中内晃次郎代表。もちろん、それだけが進出の理由ではない。

「ボラスグループ」の中核を成す「中央住宅社(現・中央住宅)」は1969年、埼玉県草加市で、中内代表の父・俊三氏が創業した。きっかけは自らの住宅購入の経験だったという。信頼できる

ユーザーの代表となる住宅会社を立ち上げ、なんとその8年後には、埼玉県下でトップクラスの住宅会社にまで急成長。今では売上高1742億円となっている。大躍進の秘密は、「品質、信用、地域密着」を重視する経営にあったと中内代表は話す。「住宅は長く使うもの。だからこそ品質とアフターサービスにこだわってきました。そのため営業拠点から車で1時間以内で行ける範囲を営業圏と定め、それ以外の地域からの注文はとらないという姿勢を貫いてきたのです。だから今も住宅事業は、埼玉、千葉、東京の一部だけ。今回の唐津への工場建設で『住宅も九州進出か?』と噂されている

ようですが、それはありません。」では何のための新工場なのか。グループにはもう一つ、業界に先駆けて1982年から始めたプレカット事業という大きな柱が成長していた。

きっかけは、熊本地震

かつて、住宅に必要な柱や梁などの部材はすべて大工が現場で加工をしていた。これに対し、事前に工場設計・加工することを「プレカット」という。「精度を上げていくためにはコンピュータを搭載した機械で加工するのが確実。だからもともとは自社のために始めたんですよ」と中内代表。加工精度や生産効率も高く、施工現場

POLUS-TEC
ボラスグループ

「ガラスケースの中に入った木組み」のようなたたずまいの本社ビル「ウッドスクエア」
※2012年グッドデザイン賞受賞。

ボラテック株式会社

ボラスグループ(本社・埼玉県越谷市)は、住まいに関する事業を行う25社からなる企業グループ。地域密着型経営を掲げ、埼玉、千葉、東京の限定エリアで注文住宅の設計・施工・販売に取り組むほか、分譲開発による街づくり、不動産、リフォーム、アフターメンテナンス、技能者育成のための訓練校などを展開。なかでも「ボラテック(株)」が手がけるプレカット事業はグループ売上全体の約25%を占める柱。

佐賀県唐津市の新工場は、茨城、滋賀、宮城、静岡に次ぎ5カ所目で、「ボラテック西日本(株)」が運営する。プレカット材だけでなく、ボラスグループが培ってきたオリジナルソフトによる構造計算や3次元立体解析などを駆使した耐震技術を提供し、安心安全な住宅づくりをめざす。